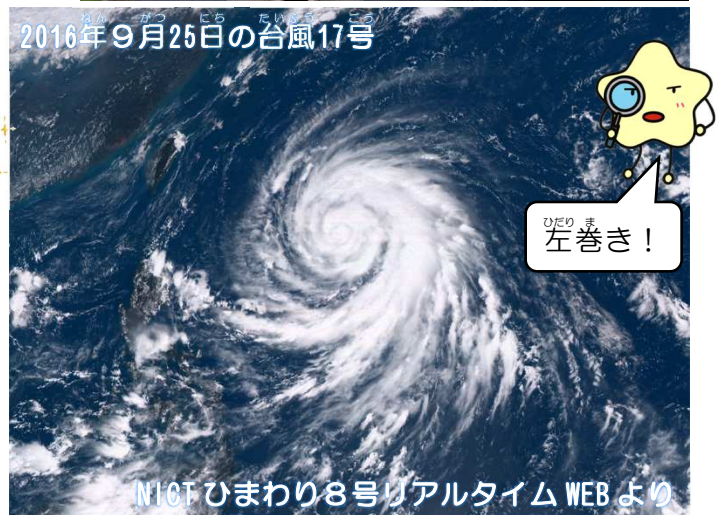


星空の交差点

渦巻きの不思議を探ってみよう

テラ・ドームの建物は、目を回したようなユニークな外観が特徴的です。この渦巻き模様は、建物の設計者である故毛綱毅曠氏が宇宙の混沌をイメージして作られたものです。対数らせんといわれるこの渦巻きは、巻貝や台風、そして銀河の渦巻きまで、さまざまなところで見られます。今回は、私たちの身の回りにある渦巻きを少しだけご紹介しましょう。



テラ・ドームでは、「うずまきのふしぎ」展を開催しています。ぜひ見に来てくださいね。

●企画展「うずまきのふしぎ」展●

★期 間：平成29年11月12日(日)まで

★場 所：テラ・ドーム企画展示室

※ 入館料だけでごらんいただけます





●9月末ごろまで 輪のある土星を見よう！

空が暗くなる20時ごろ、南の空に黄色い星と赤い星が少し離れて並んで見えます。右側の赤い星がさそり座の1等星、アンタレスで、左側の黄色い星が土星です。土星は肉眼ではふつうの星に見えますが、望遠鏡では美しい輪を持つ神秘的な姿を見ることが出来ます。テラ・ドームの望遠鏡では、周りを回る衛星も見ることが出来ます。ぜひ、テラ・ドームの夜のスターウォッチングで本物の土星の姿をごらんください。

2017年7月7日の土星



にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

●8月12日～13日ごろ ペルセウス座流星群

毎年同じ時期にたくさんの流れ星が現れる流星群の中で、最も見やすいのが夏のペルセウス座流星群でしょう。多い時で1時間に数十個の流れ星が現れます。流れ星は、宇宙から砂つぶ程度のチリが落ちてきて、空気との摩擦で光って見えるものです。ほうき星の軌道上を漂うチリの帯の中を、毎年同じ時期に地球が通るのでたくさんの流れ星が現れます。流れ星はいつどこに流れるかわからないので、夜空の広い範囲を肉眼で見るのがコツです。

ペルセウス座流星群の流れ星



にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

●8月28日(月) 伝統的七夕

7月7日は七夕です。今年は梅雨の晴れ間で七夕の星たちが見られました。でも本来は、旧暦の七月七日が伝統的な七夕です。今年は8月28日です。このころは梅雨も明け、安定した天気のもと、七夕の星たちが見えるでしょう。20時ごろ、頭の真上で光っている明るい星が「おりひめ星」で、その南東に、両脇に小さな星を従えて光っている星が「彦星」です。ふたつの星の間にある天の川は、街灯りの少ないところでしか見られません。

おりひめ星→

天
の
川

彦星→

にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

●10月4日(水) 中秋の名月

旧暦の八月十五日の月を「中秋の名月」と呼び、ススキやハギを飾り、お月見をする風習があります。今年は10月4日です。月では兎がお餅をついているというお話がありますが、月の表面にある灰色の部分が兎に見えることからできたのでしょうか。この灰色の部分は海と呼ばれています。かつて巨大な隕石が衝突し、月の表面がドロドロに溶けて固まってできたと考えられています。ですから月の海は丸い形をしているのです。

満月



にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

★星空の宝石箱⑪ はくちょう座の二重星アルビレオ

夏の夜空に大きく羽を広げて飛ぶはくちょう座。白鳥のくちばしにあたる所に光っている3等星が、アルビレオです。肉眼ではひとつの星に見えますが、望遠鏡では黄色と水色の星が仲良く並んでいるのがわかります。このような星を「二重星」と呼びます。

色の組み合わせがとても美しく、夜空の宝石と呼ばれることもあります。周りにある星たちは、肉眼では見えませんが、こうした暗い星たちがたくさん集まって、天の川として見えるのです。

はくちょう座のアルビレオ

にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

テラ・ドームみどころ紹介

発電のしくみを見てみよう



私たちがふだん使っている電気は、どのようにして作られているのでしょうか。最近では、太陽光パネルをあちこちで見かけるようになりましたが、夜や天気の悪い日には発電できないため、安定した電力を得ることはできません。このため、太陽光発電による電力は、全体のわずか4.3% (2016年) です。残りのほとんどは、火力発電によりまかなわれています。

火力発電は、石炭や石油、天然ガスなどを燃やしてお湯を沸かし、発生した蒸気でタービンを回し、その力で発電機を回して電気を作り出しています。

テラ・ドームの展示では、手回し発電機を使って新幹線の模型を走らせます。手回し発電機の中を見ると、歯車とモーターが入っています。ハンドルを回すと、その動きが歯車を伝わってモーターを回します。モーターは電流を流すと回りますが、逆にモーターを外からの力で回すと電気が起きるのです。

私たちの暮らしを支える電気ですが、その8割以上を火力発電に頼っている今、電気を作り出すためにたくさんの二酸化炭素を排出しています。地球温暖化を防ぐためにも、無駄な電気を使わないことが、私たち一人ひとりにできる行動ではないでしょうか。ぜひ一度、ご家族で電気の使い方について話し合ってみてくださいね。

非常用手動電源

パート全閉



へそ公園周辺の植物

キツネノマゴ (キツネノマゴ科)

本州から九州に分布し、道端などで普通に見られます。へそ公園でもよく見かけます。

8月から10月ごろにかけて、薄紫色の小さな花を次々に咲かせます。花には特徴的なものがあり、ルーペで拡大してみるととても可愛らしい姿をしています。キツネノマゴという和名の由来はよく分かっていないそうです。



にしわざ経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

☆流れ星クイズ☆

第1問

流れ星の正体は何？

- ① 星座の星が落ちてくる
- ② ニュートリノ
- ③ 宇宙から落ちてきた小さなチリが空気との摩擦で燃えている



第2問

流れ星を見るのに最も適しているのはどれ？

- ① 望遠鏡
- ② 顕微鏡
- ③ 肉眼

第3問

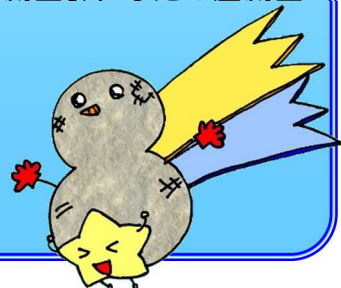
流れ星の中でも特に明るいものを何と呼ぶ？

- ① 隕石
- ② 火球
- ③ 彗星

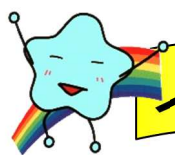
第4問

三大流星群はペルセウス座流星群、ふたご座流星群とあとひとつはどれ？

- ① しぶんぎ座流星群
- ② しし座流星群
- ③ オリオン座流星群



こたえは裏にあるよ！

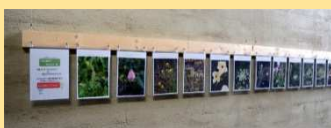


イベント情報

自然写真シリーズVol.22

「ツクシ誰の子スギナの子」展

ふだん私たちが食べている野菜や果物とその花の写真を見てみよう！



★8月31日(木)まで

★協力：西脇市動植物生態調査研究グループ

「うずまきのふしぎ」展

巻貝や植物など、身近なものから台風や渦潮、そして銀河の渦巻きまで、私たちの周りにはたくさんの渦があります。うずまきのふしぎにせまってみよう！



★11月12日(日)まで

★入館料だけでごらんいただけます



プラネタおはなし会

プラネタリウムの中で絵本の読み聞かせを行います。内容は「4 こうねんのぼく」ほかです。

★8月5日(土)・19日(土)・26日(土)

13:30～・15:30～

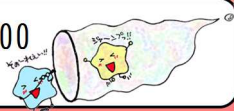
★協力：西脇市図書館サポート隊 TenTous

土曜ちょこっとサイエンス

テーマは「体感」。昔々の火おこし体験や、バルーンアートなどで、科学の不思議を体感しよう！

★毎週土曜日 14:00～16:00

★内容は週ごとにかわります



8月は休まず開館します!!

8月は月曜日も休まず開館します！ また、夜のスターウォッチングも毎週木・金・土曜日の3回

行います！ 暑い夏、涼しい

テラ・ドームで楽しい時間を
お過ごしください。



①-カ ②-ヒ ③-ニ ④-イ ⑤-ロ ⑥-ヘ

●開館時間 10:00～18:00

●休館日：月曜日・祝日の翌日(土日祝は開館)

●入館料：大人510円・学生200円・小中学生100円

子ども科学教室

身近な材料を使った実験や工作で科学のふしぎを体験しよう！

入館料だけでどなたでもご参加いただけます。

日曜・祝日 13:30～・15:30～



8/6・11 虹スコープをつくろう

8/13・20 ふしぎ!?ういたりしずんだり

8/27 みんなぜみをつくろう

9/3・10 紙の輪っかを切ってみよう

9/17・18 ダンボールつりであそぼう

9/23・24 空気砲をつくろう

10/1・8 バランストンボをつくろう

10/9・15 ガリガリプロペラをつくろう

10/22・29 どんぐりのかざりをつくろう

夜のスターウォッチング

81cm大型反射望遠鏡でいろいろな星を見てみよう！

★土曜日・祝前日(夏休みは木・金・土)

19:30～21:00

★1人200円(幼児は無料)

★要電話予約(当日でも可)

※ 悪天候の場合はプラネタリウムと星のお話です



みどころ：土星・おりひめ星・リング星雲・球状星団M15 など

テラ・ドーム通信「星空の交差点」

2017年8月号

にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

TEL 0795-23-2772

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/terra/>